

今治 Towel & Towelling

VOL.7
2FEB.2005

◎クローズアップタオル人
日本一への転機となった昭和天皇のご巡視—
日本タオル界の“名横綱”楠橋秀雄

「海流」
未来演劇K-プロジェクト・白石美香

◎タオルでひとやすみ
今治で始まった四国で最初のもの…

「演じる巨人」
女優・渡辺美佐子

◎私とタオル
「クラスのあるタオル」
モデル・岡田美里

「元気タオル」
『2004年タオルのエッセイ』
最優秀作品
岩間朗子

◎タオルのふるさと紀行
塩田で栄えたまち、波止浜
～町並みに眠るソルトヒストリー～



今治および芸予諸島の 主なイベント・祭りガイド

(平成17年4月～平成18年3月)

- ◆能島桜まつり
4月上旬の土・日曜日(未定) 宮窪町能島
問い合わせ/宮窪支所産業観光課 TEL.0897-86-2500
★村上水軍の本拠地で、桜の名所でもある能島で開催される桜まつり。
- ◆いまばり緑化フェア2005
4月23日(土)・24日(日) 市民の森フラワーパーク(市制50周年記念公園)
問い合わせ/今治市公園緑地課 TEL.0898-36-1563
★植木まつり、花苗、野菜苗の即売など多彩なイベントを開催。
花苗の無料配布もある。
- ◆藤まつり
4月下旬(未定) 大三島藤公園
問い合わせ/大三島支所地域教育課 TEL.0897-82-0500
★約300mもの藤棚を誇る花の名所。藤が満開のなか、野点茶会や琴演奏、アンデスの民謡などイベントが満載。
- ◆島四国八十八カ所
4月27日(水)～29日(金) 大島全島
問い合わせ/吉海支所産業観光課 TEL.0897-84-2111
宮窪支所産業観光課 TEL.0897-86-2500
★約200年の伝統を持つへんろ市。毎年旧暦の3月19日～21日に開催され、多くの巡拝者が訪れる。
- ◆第14回 今治タオルフェア
5月14日(土)・15日(日) テクスポート今治
問い合わせ/四国タオル工業組合 TEL.0898-32-7000
★全国一のタオル生産地である今治のタオルメーカーが、一堂に集まって開催する即売会。各種イベントも開催。
- ◆バラ祭りようみ2005春
5月14日(土)・15日(日) よしうみバラ公園
問い合わせ/吉海支所産業観光課 TEL.0897-84-2111
★世界各国のバラ約400種が咲き乱れる公園で、新鮮市やアレンジメント教室など多彩なイベントが開催される。
- ◆大山祇神社御田植祭
6月11日(土) <旧暦5月5日> 大山祇神社
問い合わせ/大山祇神社 TEL.0897-82-0032
★早乙女と田男が古式にのっとり、厳肅に御田に苗を植えていく。一人角力の奉納や少年相撲大会も行われる。
- ◆水軍レース大会
7月10日(日)(予定) 宮窪町能島沖
問い合わせ/宮窪支所産業観光課 TEL.0897-86-2500
★400年前瀬戸内で活躍した村上水軍の小早船を復元し、その速さを競うレース大会。海上戦国絵巻を再現。
- ◆三島水軍鶴姫まつり
7月17日(日)(予定) 大山祇神社から宮窪港までの参道
問い合わせ/大三島町商工会 TEL.0897-82-0795
★瀬戸内のジャンヌダルク鶴姫を中心とした武者行列、花火大会など多彩な催しを開催。
- ◆今治タオルフェスティバル
7月23日(土)・24日(日) テクスポート今治
問い合わせ/(株)今治繊維リソースセンター TEL.0898-23-8700
★タオル産地今治のタオルメーカーによるタオルの大特売市。
- ◆サマーフェスタinかみうら2005
7月下旬もしくは8月上旬の土・日曜日(未定) 多々羅しまなみ公園・戸坂海岸
問い合わせ/上浦支所産業観光課 TEL.0897-87-3000
★立て干し網の魚のつかみ取りや歌謡ショー、花火大会などイベントが盛りだくさん。
- ◆今治市民のまつり・おんまく
8月6日(土)・7日(日) 今治港周辺・広小路・中心商店街
問い合わせ/今治商工会議所内今治市民のまつり委員会 TEL.0898-23-3939
★広小路を埋め尽くす踊りコンテスト(ダンスバリサイ)、伝統芸能の稚ざ獅子をはじめ、最終日の花火と音楽のコラボ「夢花火」が開催される。
- ◆今治せんいまつり2005
10月の土・日曜日(未定) 今治地域地場産業振興センター
問い合わせ/今治地域地場産業振興センター TEL.0898-32-3337
★タオル、織物、食品など堂々の名物・名産品の特別大春先即売会と、デザインコンクールの出品作品の展示。
- ◆お供馬の走り込み
10月16日(日) 加茂神社
問い合わせ/菊間支所産業観光課 TEL.0898-54-3450
★約500年もの伝統を持ち、勇壮な少年騎士が着飾った馬に乗り、加茂神社の参道を一気に駆けぬげる勇壮な祭。
- ◆第15回 今治タオルフェア
10月22日(土)・23日(日) テクスポート今治
問い合わせ/四国タオル工業組合 TEL.0898-32-7000
★全国一のタオル生産地である今治のタオルメーカーが、一堂に集まって開催する即売会。各種イベントも開催。

※平成17年2月調べ

※記載の日程等は予定および未定です。事前にお問い合わせください。
※本紙に関するご意見・ご要望がございましたら事務局までお寄せください。

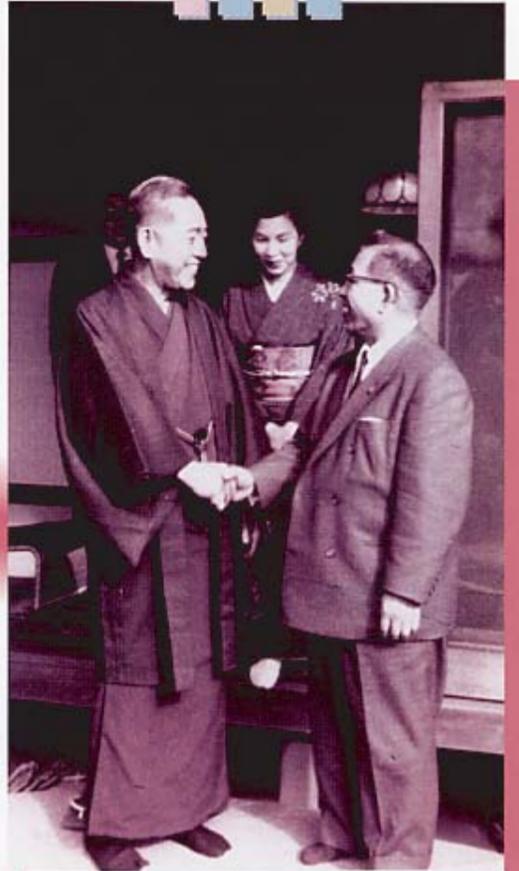
日本タオル界の“名横網”

「今治タオル」が、タオルの創業産地である「大阪タオル」を生産額で追い抜き、日本一の生産地としてトップランナーの地位についたのは昭和三十五年のことである。大阪産地に「追いつけ、追い越せ」の号令のもと、戦後タオル産地として大躍進をつづけてきた結果、ようやく達成した「日本一」の座であった。

楠橋秀雄

戦後の新憲法において、天皇の地位が「象徴」という言葉で表されたのと同様に楠橋紋織は今治タオル産地の「象徴」ともいえる立場を保持し続けたメーカーだったのである。

クロズアップ タオル入



昭和39年10月、一人娘の結婚式の来賓として佐藤榮作元総理（昭和39年11月総理大臣就任）を自宅に迎える楠橋秀雄夫妻。

彼が四国タオル工業組合の理事長に就任したのは昭和三十年四月。そして大阪・中部・四国・九州・東京の産地を束ねるタオル工連の理事長に就いたのが昭和三十五年から三十七年までの二年間。今治産地が、

昭和二十年八月の大空襲によってタオル工場の90%近くが焼失した中からの苦境のスタート。それを乗り越え、十五年目にして日本一の称号を得たのであるから、業界首脳への敬愛は、また格別なものであったにちがいない。そうした時期に、日本タオル工業組合連合会（以下、タオル工連と呼ぶ）の理事長の職に就いていたのが楠橋紋織（株）の社長だった楠橋秀雄（五十二歳）である。

他産地を抜き生産量日本一の座についた時期に、軌を一にするがごとく楠橋秀雄は組合員の頂点の地位にあつたのである。そのことは、まったくの偶然であつたとも考えられるし、また必然の域だったともいえるだろう。戦後の今治タオルの驚異的躍進は、楠橋秀雄の経営する楠橋紋織（株）の躍進の歴史でもあり、業界の発展と楠橋紋織の成長は不即不離の関係であつたといつても過言ではない。



昭和25年頃の楠橋紋織社屋。

楠橋秀雄は、明治四十一年七月、今治市宅間（水泥）で、父・三郎治、母・シカの長男として生まれた。父の三郎治は農業のかたわら、農機具商も行って、地元の農家から農機具の注文を取り、主に岡山のメーカーに発注していた。秀雄に続いて二歳下の弟が生まれ、名は俊夫とつけられた。

俊夫は、地元の小学校を卒業すると市内の県立工業講習所の機械科に入学。卒業後は、八幡浜にあった織物検査所に勤務することになる。彼は生来、研究熱心な人物だったので、織物を検査するだけの仕事に飽きたらず、三年ほどで退職し、父の所有する耕田の一角に、ザンギリ屋根二棟のタオル工場（楠橋三郎治織工場）を親子三人で設立し、織物業としてのスタートを切った。昭和三年のことである。

ところが、同十六年に太平洋戦争が勃発し、翌十九年、俊夫が応召されフィリピンで戦死。つづいて長男である秀雄にも「赤紙」が来たが、運良く、内地の勤務地で体調を崩し戦場に赴くことなく終戦をむかえた。

戦後のスタートは昭和二十一年。幸運にも焼失を免れたジャカード織機二十四台、五十人の従業員で再出発。秀雄は社長として陣頭指揮を執ることになった。



昭和41年に建設された現在の楠橋紋織社屋。

同二十六年に株式会社を改組。経営陣には新しく甥の近藤二夫が加わり、

日本一への転機となった昭和天皇のご巡視

土再建”の気概でもって、トップメーカーになるべき路線を敷き陣容を整えていった。「日本一のタオルメーカーになろう」との夢を持ち始めたのは、前年に昭和天皇のご視察先に楠橋紋織が選ばれたことで、そのことによつて従業員は士気は大いに高まり、経営陣にとつても、この上ない誇りと励みになった。



昭和天皇ご視察当時の写真。タオル織機の説明を受けられる昭和天皇（左）と楠橋秀雄（右）。

そして同三十年、ついに念願がかない、生産額において日本一のタオル会社の地位についたのだ。偶然にも売上金額が今治市の予算額と同規模であつたことなども加わって、社内での運はいやが上にも高まり、以降「昭和時代」は実力、信用ともに他社を圧倒し業界の「横綱」としての地位を確立していったのである。現在は引退し、悠々自適の日々を送っている。

元専務で生前の秀雄を知悉する唯一人の証人と見える近藤二夫は、「楠橋秀雄という人物は、不思議なほどに私利私欲がまったくない人だった。営業



昭和28年10月、四国タオル工業組合の旧事務所2階で開催された、今治タオル創業60周年記念展示会『外国タオル、内地タオル展』風景。



当時の作業風景。

関係のことはほとんど私がかかされていたのだが、まかせるといってたらあとは一切何も言わなかった」と、自宅の応接室で往時のことをふり返り秀雄の人間性をキツパリとした口調でいきました。平成の時代に入り、他の業界同様、タオル業界も激変の嵐に見舞われ、長年守り続けてきた日本一の座を他社に譲り渡してから久しい。楠橋紋織の全盛時代を担い続けてきた近藤の目には、現在のタオル業界はどのような風景に映っているのだろうか。

自社のことは殆んど近藤に任せ、業界全般の発展と地位向上に尽力した楠橋秀雄は、昭和六十二年六月二十六日、脳内出血で倒れ七十九歳の人生を閉じた。

（文芸誌「とんどび」主宰者・阿部克行）

未来を切り拓くには
過去から答えを求めるしかない

— 井上ひさし —

タオルで
ひとやすみ

今治で始まった四国で最初のもの… 『開港』、『キリスト協会』。

何故、今治沖、来島海峡の小島に、立派な、西洋式砲台が出来たのだろうか？

明治37年日露戦争の時、ロシア、バルチック艦隊を迎え撃つ地点として、まさに絶好のポイントだった。今も一日、1,000隻以上の船舶が、来島海峡を通過して、関西、北九州、日本海へと、航行している。

明治の今治人は、町の沖合を航行する船を見ながら、今治地方の、産業生産物や、文化、情報の集散地として『今治』こそ『選ばれた土地』と云う想いが、四国最初の「開港地」になった。

何故、今治に四国ではじめてのキリスト教会ができたのだろうか？

まだ封建制や身分制がくすぶるなかで、明治12年に創立されたこの教会には、徳富蘆花も身を寄せ、英学校講師を勤めている。

日頃、商業を通して、大阪・神戸の西欧文化や雰囲気にも馴染むことが多かった今治地方の人々にはキリスト教も西欧文化も受け入れる力があつた。

織物、タオル関係の人々は、日常生活にも、キリスト教の西欧思想を身に付け、隣人愛をバックボーンに、今日を感謝し明日への旺盛な商業活動に発揮していった。

良質の土壌から美味しく、エネルギーのある栄養価の高い作物が出来るがごとく、個性的な場所の上に先取性に富んだ人々が伊予木綿、綿ネル、タオルへと移り変わっていく繊維工業を発展させていった。

私はそこにしかない自然の形を有する潮流美の来島海峡は自称「世界遺産候補」と自負する今治のブランドである。

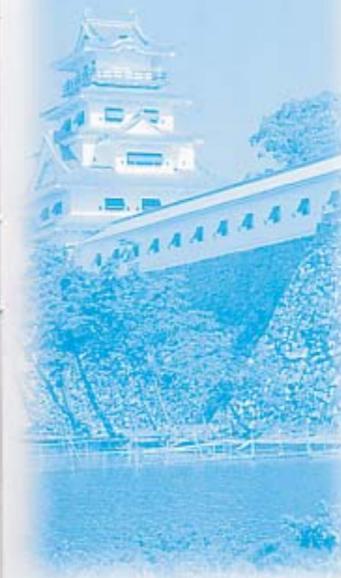


(株)今治繊維リソースセンター
集積活性化委員長

宮崎 弦

今治基督教會。
1909(明治42)年、創立30周年記念に会堂増築され、鐘樓を新築した。

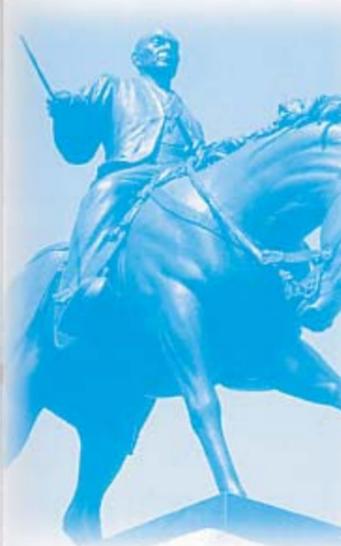
『海流』



タオルの生産地であつて、私たちは日々『日常』という絵巻物を織り続けている。時は移っても織機は回り続け、はるか来島の波音と共鳴する。

藤堂高虎が『今張』の浦に海城を築いたのは今を遡ること四百年、慶長五年から九年にかけてのことである。この小さな漁村は『今治』の名を冠し、二十万石の城下町へと変貌していった。やがて今治は四国の交易の拠点となり、異国の思想が根付くに十分な柔軟性も培われたのだらう。

今年(二〇〇四年)、市民演劇『藤堂高虎物語 青雲の城』の演出に携わり、私は生粋の今治人でありながら、こういった歴史的事実に初めて触れることとなった。今治城は守りの城ではなく、攻めの城である。その中で、高虎公が今治に海城を造った理由が述べられ



未来演劇プロジェクト主宰・白石美香

ている。まず、九州より大阪に攻め上る軍団があればすべし軍船で出撃し、備後の福島正則と狭み撃ちにできるという地の利。そして彼が睨んだのは戦乱の世の後に来る、海上交易の時代である。城は戦のためばかりでなく、町と共に栄えるべきものであつた。

高虎の予見どおり、海辺の城下町の人々は沖合を行き交う船から様々な情報や思想を手に入れ、代わり産物物資を送り出していった。こうしてみると、今治に織物・タオル産業が根付いたのは高虎がこの地に城を造ったことに行き当たる。四百年前の築城がなければ、今日の今治の町は大きく姿を変えていたことだろう。

始まりが藤堂高虎とするならば、今、私たちはどこへ向かっているのだろうか。続く歴史は終わりのない海流のようだ。同じ海域を廻っているから見えて、一時として同じ水、同じ流れはない。しかし、遠い昔に小さな港から沖へと船出していった海の民の志は、私たちの遺伝子に受け継がれていると信じていたい。

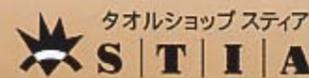


白石美香プロフィール

1964年 今治市生まれ市立美須賀小学校 百中中学校
今治北高校 関西外国語大学卒業
2001年8月 未来演劇プロジェクト出演
(原簿、脚本、演出、出演など)
2004年10月 市民演劇『藤堂高虎物語 青雲の城』演出
2005年1月 今治少年少女合唱団第44回学芸発表会
合唱ミュージカル演出
2005年9月 未来演劇プロジェクト第4回公演
『ASHクリスマス2005』脚本演出



タオルの製造工程が見学できるテクスポート今治内にあるタオルショップ。
タオルメーカー30社のオリジナルタオルを販売しています。
バスタオルなど水周り品はもちろん、ベビー用品、タオルマフラー・帽子、バストレス、リラクゼーションアイテムなど幅広く取り揃えています。



タオルショップ スティア
〒794-0033
愛媛県今治市東門町5丁目14-3
TEL・FAX 0898-34-3486
http://www.stia.jp/shop
E-mail shopmaster@stia.jp
営業時間 am10:00~pm6:00(年末年始休み)



『化粧』舞台写真
井上ひさし作一人芝居『化粧』は1982年の初演以来、
全国117都市578回を数える、芸術選奨文部大臣賞受賞、
海外でも多数上演され、国際的にも高い評価を得ている。



演じる 一人

渡 辺
わたなべみさこ
美佐子

原爆で家族を亡くされた方や被爆した詩人の原爆朗読劇「この子たちの夏-1945 ヒロシマ ナガサキ」。1985年から続けられているこの活動は、今年菊池寛賞を受賞。また原爆で亡くなった小学生の同級生、水永龍雄君のことを書いたエッセイ「りんごのほっぺ」は高校の教科書にもとりあげられている。



ちよいとタオルのマフラーを頂いたのを覚えてます。肌に触れる質感が大好きで大事に持っています。タオルと言えば「化粧」の楽屋では、体中の白粉を落とすのにおしぼりを山のように使います。厚ぼったい生地のものより、何度も洗濯をしたような薄手の肌馴染みのいい。また、私たちの仕事の敵は風邪です。予防のためにタオルを首に巻いたり、背中の下着の間に一枚挟んだりしています。ちょっと汗ばんだりしたらすぐにそのタオルをシュッととればいいでしょ。タオルは肌に一番密接に関係するもの。子どもが小さい時に、粗相をしないようお尻にタオルを巻いて一緒にお風呂に入ったことも懐かしく思い出します。

『未知なるものへの好奇心』

ともかくにも珍しいものが大好。今まで経験したことのないことを体験することができるとワクワクし、好奇心が旺盛なので、体ごと飛び込んでいきます。若い頃は全てが初めてで珍しいものがいっぱいだった。

私は仕事のなかで、普段の生活では体験できないような感情と向き合うことができ、新しい役を与えられ、自分の知らない、想像のつかない出来事がドラマの中で起きると、それに向かって今まで経験したことのない感情がドキドキしながら全身からわいてきます。最近は二十、三十も年の離れた若い方と仕事をすること刺激をうけることも多くなりました。体を動かし、心を動かし、感情を動かすこの仕事は性分に合っていて、もうとりつかれているんですね。

『キューリー婦人と母』

小学生の頃から、早く仕事をしたいと心に決めていました。まさか女優になるとは夢にも思っていませんでしたが、それは疎開先で読書に没頭していた頃に出会った一冊の本「キューリー夫人」と、

『一人芝居』

一人芝居を始めた頃からでしょうか、お客様あつての私たちの仕事だと強く感じるようになりました。若い頃は仲間と一緒に舞台の上でいいお芝居を作っていく楽しさに夢中でしたが、一人芝居の味方はお客様だけ。わざわざ舞台に足を運んでくださるお客様をがっかりさせたくないという思いは年々強くなり、私の支えになっていきます。といってもお客様の感じ方は千差万別ですので、気持ち推察するというのはありません。自分が一番いいと信じたことを誠実にそこで演じ、舞台の上で生きる。何十回、何百回繰り返している舞台でも新しい何かをいつも探しています。

母親の影響だったと思います。私は五人兄弟の末っ子。その頃の母はこまねずみのように働いていました。子どもたちの食事に洗濯、穴の空いた靴下を切れた電球に被せて繕ったり、夫の着物の繕い物をしたり、食べ物不足していたあの頃「よく噛んで食べるのよ」と毎朝大豆を煎って紙袋に入れてもたせてくれたり。夫と子どものためだけにいつも手を動かしていた母の姿をみて自立心は育ったのでしよう。高校を卒業してすぐに俳優の学校に入り、好きな仕事をしながら、結婚し、子育てを一通り終えました。仕事と家庭とそれぞれ一生懸命やってきたつもりですが、この年になって母のような生き方をした女性は素晴らしいと思うようになりました。私がこれだけしてあげてるんだから、そんな愛情の見返りを求めることもない、平凡だけど幸せな母の生き方。十数年前に「ひとり旅 一人芝居講談社」というエッセイに挑戦したのは、そんな母のことを書き留めておきたかったからです。

『楽屋のタオル』

一人芝居「化粧」、朗読劇「この子たちの夏-1945 ヒロシマ ナガサキ」とも全国各地で公演を続けています。今治では公演後、出演者全員に肌触りの気持ち

『出会い』

携帯電話やメールなどの通信・交流ツールがあふれ、人と人が生で触れあう機会が減っていくなか、お客様と同じ場所での時間を共有できる贅沢。汚れても、古くてもいいから小さな劇場で演じたいというのが、その理由です。
作家に出会う、演出家に出会う、俳優に出会う、お客様に出会う。私たちの仕事で「出会い」はとても大切です。「出会い」は意識的につくるものではなくて、何かの拍子にめぐりあうもの。好奇心を持ち、誠実に、一生懸命続けていく……。素晴らしい「出会い」がこれからも待っていると信じています。



渡辺美佐子 わたなべみさこ
昭和7年、東京都麻布生まれ。俳優座養成所を経て、多くの日活映画出演後フリーに。映画「果てしなき欲望」でブルーリボン助演女優賞、「オッペケペ」で「小林一茶」で紀伊国屋演技賞他。エッセイでは「ひとり旅 一人芝居」で日本エッセイストクラブ賞受賞。テレビでもNHK連続テレビ小説「おしん」「春よこい」他、現在は「渡る世間は鬼ばかり」(TBSテレビ制作)に出演。芝居、朗読、文筆と幅広い分野で活躍中。



モデル 岡田美里 (おかだみり)
アトリエミリミリー主宰。本名：柳沼美里。
1961年8月24日 東京、神宮外苑前に生まれる(乙女座、A型)。
聖心女子大学教育学部 初等教育学科卒業。

上に大きく広げ
たタオル、運動会
の汗をふいてあ
げるタオル、ビー
チで真っ黒に日
焼けした肌に似
合うタオル…。今
はもうティーン
エイジャーの仲
間入りをして、ダ
ンスが大好きな
娘は、レッスニン
に出かける時には、

必ずタオルを入念に選んで行きます。

人間が産まれて初めて関わる「布」が、
真っ白いタオル。「おめでとうございませ
お嬢ちゃまですよ。」と看護婦さんに抱か
れた我が子に直面した時の感動は、今も
なお新鮮な記憶です。
清らかな誕生には、純白のタオルが、や
はりいちばん似合うように思います。
私が娘を生んだのが二十九歳の時。そ
のころから、ますますタオルとの関わり
が深くなったようです。赤ちゃんを寝か
しつける時に、ふわりとかけるタオル、湯
上がりのピンク色のほっぺをキュッと包
んであげるタオル、ピクニックシートの

「自宅で使うタオルは、いいかげんなも
のを使つてはいけません。人間のクラスは、
タオルに表れるものだ」と言つて、私の家
のタオルをすべてスベイン王室御用達の
タオルにかえさせたのは父でした。一緒
に買い物に行った時、最上級の風合いと
美しい色にも驚きましたが、レジで父が
支払ってくれた八万円という金額にも大
変びっくりしました。毎日毎日かわる
タオルにこそ贅沢をした父は、パーキン
ソン病を煩つて、最後は寝たきりになり
ました。車椅子の頃は、私が自宅で介護し

クラスのあるタオル

ましたが、ほんとうに末期には、ハワイの
姉のところまで過ごしておりました。ベッ
ドから起き上がれなくなった頃、身体の大
きい父でしたから、Tシャツに着替え
させるのも大変で四苦八苦していたこと
ろ、アメリカ人の介護士さんが訪ねてき
て、「良いタオルを身体中に巻いてあげて、
床擦れができないようにタオルを丸めて
身体を支えるのが一番。」と言いました。
合理的なアメリカ人の言葉にはじめは人
間の尊厳として、寝間着くらい着せてあ

げたいと抵抗がありました。が、介護をす
る日々の中で、常夏の島ハワイでは柔ら
かいタオルにくるまつたほうが、父自身
も、私たちもお互いに辛さを半減できる
ことに気がつきました。
産まれた時もタオル、亡くなる時もタ
オルにくるまつて父は逝きました。
たくさんの優しさを込めたタオルから、
私は大切なことをたくさん学ばせてもらつ
たように思います。

『2004年タオルのエッセイ』
最優秀作品

元気タオル

心地よいタオルに身を包むときの安堵感
は何よりも、ほっとする至福のときだ。それ
は、健康なときよりも、病のために少々身も
心もまいってしまつているときにしみじみ
と痛感する。この冬にちょっとした気のゆる
みでインフルエンザにかかつてしまった。日々
の家事もままならず、小学生の娘にあれこれ
と用事を頼んで、なんとかしのいで一週間。
やっと、自力で入浴できるようになったので、
そろりそろりとバスルームへ。油断しての長
湯は禁物と思い、風呂場から上がると、娘が
ふかふかのタオルを手渡してくれた。「私が
赤ちゃんのころに使つていたタオルをおば
あちゃんのうちから探してもつてきたよ。こ
れは、やさしくて、気持ちいいから、元気にな
れるよ。」娘は、そのタオルを自分の頬に押し
当てながら、そう微笑んだ。「そうだったね。
なつかしいね。なんだか赤ちゃんのにおいが
するよね。」そう言いながら、あのかげがえの
ない娘の幼いころの日々と、こうして心も体
も成長している娘がどうしようもなく愛お
しく思えた。タオルにしみこんだ思い出の香



会社員
岩間朗子
(いわまあきこ)
42歳。東京都在住。
『2004年タオルのエッセイ』
最優秀作品。

りと感触が少々弱気になつていた私を励ま
してくれる。元気タオルで私は不思議な魔
法にかけられて、頬に赤みがさしてきた。

タオルの 今昔物語 を知る。



今治織物歴史資料室
タオル工場(最新のタオル機)
二挺苧パタン

明治43年、藤堂三郎(ふもとつねさぶろう)が
発明した、まぼろしの織機「二挺苧(に
ちようおさ)パタン」が復元され展示
されています。
同機は一つの動作で、2つの枠が飛び、浴
用サイズ幅のタオルを同時に2枚織るこ
とができる当時としては画期的な織機で、
タオルの生産量は倍増し今治タオル飛
躍のきっかけを作りました。

テクスポート今治では、
タオルの製造工程が見学できたり、
織物の体験学習もできます。
また、館内のタオルショップSTIA(スティア)では、
タオルメーカー30社の最新デザイン
オリジナルタオルを販売しております。



タオル&ライフミュージアム
テクスポート
TEXPORT今治
〒794-0033 愛媛県今治市東門町5丁目14番3号
TEL.0898-23-8700 FAX.0898-23-8702

塩田で栄えたまち、波止浜

～町並みに眠るソルトヒストリー～

かつて瀬戸内海沿岸は、塩づくりが盛んな地域として知られ、各地で広大な塩田を見ることができた。しかしその光景も今はなく、塩田とともに誕生・発展した波止浜の町並みが、静かに時の経過を伝えている。

地域史愛好家

おおなる つねひろ
大成 経凡



写真は昭和初年頃の波止浜の町並み、『波止浜名勝』絵葉書より(高瀬社発行)。

伊予国 最初の入浜式塩田

波止浜に入浜式塩田が築かれるのは、江戸時代中期の天和三(一六八三)年のことである。以来、廃止となる昭和三四(一九五九)年までの二七〇年余り、波止浜は製塩業と深いかわりをもつことになる。

塩田開発以前、そこには遠浅の入り江「宮湯湾」(※)が広がり、潮が満ちると波方支所(旧波方町役場)付近まで海水が入り



入浜式塩田の作業風景。昭和初年頃の波止浜塩田(今治写真館撮影)。

込んでいた。ここが入浜式塩田の最適地であると考えた波方村の長谷部九兵衛は、安芸竹原でその技術を修得し、松山藩へ開発をうながした。しまなみ沿線では、竹原塩田の技術を導入することで、江戸中期から後期にかけて、入浜式塩田の開発が進んでいる。竹原の開発は慶安三(一六五〇)年で、その後、備後松永(一六六二)、安芸生口島(一六七〇)、備後向島(一六七七)へと続き、天和三年によやく波止浜にも伊予国最初の入浜式塩田が誕生している。

波止浜には、開発当初三三軒の入浜式塩田が築かれ、後の増改築で幕末期には四二軒・約六〇町歩の規模となる(塩田一区

※ハコガタの地名が転化して、ハガタになったと伝えられる。ナミカタと呼ばれるのは昭和三五年の町制施行後のこと。

画の経営単位を一軒前という(一町歩約一ヘクタール)。塩田の開発が、波止浜を領内有数の港町へと導き、そこから生まれた町人文化の一つ「神明神社山車」(市指定文化財)は、いまも地元住民に愛されている。



神明神社祭り。旧暦の小正月に実施。山車を引っ張るのは子供たち。

浜旦那が活躍した時代

明治になると、波止浜塩田の多くは地元住民の所有へと変わる。やがて彼らの蓄積した富が波止浜財界を形成し、塩田経営を基盤とした各種近代産業の発展や地域文化の振興に大きな影響を与えた。

矢野本家(濱田屋)は、かつて県内有数の富豪家として知られ、大正の最盛期には波止浜に一二軒の浜を所有し、自らの土地を歩いて周桑平野まで行けたという。矢野通保は、日本画家・大智勝観のバトロン役を担うなど、郷里出身の苦学生に対し奨学金を与え、教育の振興に貢献している。

升八木家(升屋)は、塩廻船から水産業に事業を展開。八木亀三郎は北洋の蟹漁業で成功し、大正の最盛期には四軒の浜を所有して、愛媛県一

の高額納税者となった。今治商業銀行の頭取や今治瓦斯(株)の初代社長を務めるなど、今治の近代産業育成に重要な役割を果たしている。

丹八木家(丹波屋)は、もと塩問屋であったが、明治に入って醸造業にも事業を拡大。全国の醤油品評会で一等賞金牌を受賞している。また八木光三郎は有志とはかって塩田を一軒つぶし、そこに



八木亀三郎家。大正初年竣工の近代和風建築。通称「蟹御殿」。

愛媛最初の洋式造船所(株)波止浜船渠を設立している(明治三五年)。同家は最盛期、五軒の浜を有した。

原家(徳島屋)は、丹八木家とともに塩問屋を務め、塩田も一軒所有した。文学博士の原秀四郎は同家の子で、その弟・真十郎は波止浜の名町長。名塩業組合長として知られる。彼は波止浜公園の整備や小島砲台の払い下げ・公園化を実現し、合同製塩工場の建設や流下式塩田の地盤改良等、波止浜塩田の近代化を推進した。塩田廃止の決断も、彼によって下される。

龍神社は、塩田開発とともに創建され、長い時間をかけて現在の境内を形作ってきた。雄壮な社殿と奇進石造物が、町並みに残された旧家とともに、塩田の賑わいをいまに伝えてくれる。